

まりもだより

第5号

医療法人社団まりも会ヒロシマ平松病院の広報誌

CONTENTS

医療法人社団まりも会
新理事長・病院長・会長就任の
ごあいさつ

リンパ浮腫でお困りの患者さまのために
「光嶋勲リンパ浮腫センター」

まりも会の在宅部門を紹介します！
訪問看護ステーションサポートひらまつ

栄養サポートチームと摂食嚥下チームの奮闘

広報誌「まりもだより」電子化のお知らせ

表紙写真は10月の
乳がん（ピンク）
肝がん（エメラルドグリーン）
メンタルヘルス（シルバー）
の啓発月間をイメージしました

医療法人社団まりも会理事長就任のごあいさつ

このたび、当法人の理事長に就任いたしました。私は、1982年に広島市に開院した当院が地域の皆さまと共に歩んできた歴史を誇りに思うとともに、これからの新たな挑戦に胸を躍らせております。1982年広島市に平松整形外科病院を開院して以来、整形外科の専門医療機関として整形外科二次救急を中心とした地域医療に努めてまいりました。1999年に河石記念病院を設立。2011年には二つの病院を統合し、ヒロシマ平松病院としました。2015年からは介護部門を設立し、患者さまの退院後の生活にも寄り添った支援を行っております。さらに、2016年からは歯科口腔外科を設立し、口腔ケアの充実にも努めております。医療と介護の現場は、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進、人手不足、働き方改革、そして高齢化社会の進展など、多くの課題に直面しています。特に、パンデミックの影響を受けた感染対策や、精神的健康のケアといった新たなニーズも浮上しています。しかし、これらの課題は同時に新たな成長のチャンスでもあります。当法人は、これらの課題に立ち向かいながら、地域に根ざした医療と介護サービスの質をさらに向上させてまいります。私たちは、地域の皆さまや周辺の医療機関からの期待に応え続けるため、絶えず進化を遂げてまいりました。今後もその歩みを止めることなく、充実した医療・介護サービスの提供に努めるとともに、DXの導入による業務効率化や職員の働きやすい環境づくりにも力を入れてまいります。未来を見据え、地域の皆さまとともに歩む医療法人として、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



医療法人社団まりも会
理事長 高澤 篤之

ヒロシマ平松病院 病院長就任のごあいさつ

この度、当院の病院長を務めさせていただくことになりました、平松咲子です。私たちの病院は、地域の皆様に支えられながら、ここまで歩んでまいりました。まず初めに、これまで当院を支えてくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

日本において、平均寿命は年々伸びておりますが、健康寿命がそれに伴って同じように延びているわけではありません。私たちは、地域の皆様が健康で豊かな生活を送ることができるよう、健康寿命を伸ばす活動にも積極的に取り組んでまいります。

医療の分野は日々進歩しています。私たちもその進歩に遅れることなく、常に学び続け、より良い医療を提供できるよう努力を惜しみません。最新の知識と技術を取り入れ、患者さま一人ひとりに最適な治療をお届けすることを目指します。

また、周辺の医療機関との連携を大切に、地域全体の医療水準の向上に努めてまいります。私たちは個人病院ならではの柔軟性ときめ細やかなサービスを活かし、地域における重要な役割を果たしていきたいと考えております。

さらに、地域の子供たちや若い世代との交流の場をもうけ、医療職の魅力を伝える活動も行なっていく予定です。未来の医療を担う若い世代に、医療の素晴らしさとやりがいを知ってもらうことが、私たちの願いです。

最後に、当医療法人を開設し、これまで築いてきた現会長の功績を大切に、その志を引き継ぎながら、新たな時代に向けて更なる発展を目指してまいります。今後とも、当院へのご支援とご愛顧を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



ヒロシマ平松病院
病院長 平松 咲子

医療法人社団まりも会 会長就任のごあいさつ



医療法人社団まりも会
会長 平松 廣夫

1982年に当法人を設立して以来42年、当地に新病院を設立して13年を経過し、整形外科を中心に高齢化、社会の中、外科、内科等、各科の協力を得て病院を運営してきました。その間隣地にて介護事業を新たに起こし、サービス付き高齢者住宅ケアホームも開設しました。各科協力のもとに基本理念を礎に医療を行ってきました。このたび、理事長を長男の高澤篤之院長に、院長を平松咲子副院長にお願いすることになりました。私自身もしばらく会長として今まで通りの医療を進めるつもりです。新しい時代に即した医療を続けていけるものと期待しております。

リンパ浮腫でお困りの患者さまのために 光嶋勲リンパ浮腫センター

近年、がん治療の進歩に伴い、がんサバイバーが増加しています。それに伴い、がん治療の晩期合併症の一つであるリンパ浮腫の患者数も増加傾向にあります。リンパ浮腫は、身体の一部がむくむ症状を引き起こし、日常生活に支障をきたすこともあります。しかし、リンパ浮腫に対する認知度はまだ低く、専門的な治療を受けられる医療機関も限られています。

そこで、ヒロシマ平松病院に世界的に著名なリンパ浮腫治療の権威である光嶋勲医師をセンター長とする「**光嶋勲リンパ浮腫センター**」を設立することで、リンパ浮腫に苦しむ患者さまに質の高い専門的な医療を提供し、患者さまのQOLの向上への貢献、最新の治療法や新薬開発などリンパ浮腫治療の研究活動を通じた国際的なリンパ浮腫治療の発展への貢献、新規スタッフへの研修プログラムや継続的な教育の機会を提供し、リンパ浮腫治療の専門家育成への貢献を目指します。

下記の症状に悩まれている患者さまは 一度ご相談ください。

- ・ がん治療後、リンパ浮腫の症状に悩む患者さま
- ・ 原因不明のむくみに悩む患者さま
- ・ 先天性のリンパ浮腫に悩む患者さま (小児から高齢者まで)

当センターで提供する医療等サービス

- ① リンパ浮腫の診断:
 - 問診、視診、触診
 - ICGリンパ管造影によるリンパ管の状態観察
- ② リンパ浮腫の治療:
 - 保存療法: 弾性ストッキングによる圧迫療法、スキンケア、リンパドレナージなどの複合理学療法
 - 手術療法: リンパ管静脈吻合術(LVA)、リンパ管移植、脂肪組織除去
- ③ 術後管理:
 - 術後の経過観察、合併症への対応、遠隔診療
- ④ 患者さんサポート:
 - 治療費や保険適用に関する相談窓口の設置
- ⑤ セカンドオピニオン:
 - 広島大学病院国際リンパ浮腫治療センターとの連携によるセカンドオピニオン提供

当センターの特徴

専門性の高い医師による治療

世界的に著名なリンパ浮腫治療の権威である光嶋勲医師をセンター長に、リンパ浮腫治療の専門知識と豊富な経験を持つ医師陣が治療にあたります。



光嶋 勲 センター長

患者さま一人ひとりに合わせた最適な治療

患者さまの状態を丁寧に診断し、生活背景も考慮しながら、保存療法と手術療法を組み合わせた最適な治療を提供します。

チーム医療

医師、看護師、理学療法士、作業療法士など多職種チームで患者さまをサポートします。

最新技術の導入

リンパ管静脈吻合術(LVA)やリンパ管移植など最新の技術を駆使した手術療法を提供します。

広島大学病院との連携

広島大学病院国際リンパ浮腫治療センターと連携し、セカンドオピニオンや高度な医療を提供します。

地域社会との連携

地域の医療機関や支援団体と連携し、患者さまが地域で継続的なサポートを受けられる体制を構築します。



まりも会の在宅部門をご紹介します！

訪問看護ステーション サポートひらまつ

訪問看護ステーションサポートひらまつは、看護師・理学療法士等が、ご自宅やサービス付き高齢者住宅に訪問し、一人一人に合った専門的なケアや医療的管理、アドバイス、リハビリ等の援助を行っています。ヒロシマ平松病院が主治医の方だけでなく、南区・中区にお住まいの方に対し、医師の判断のもと必要時に介護保険・医療保険を使い利用することが可能です。

持病がある方、医療的ケアが必要な方、入院後の状態変化があった方、自宅でのリハビリが必要な方、独居や老々介護で支援の必要な方など、ご本人や家族だけでは自宅で安全な生活維持が困難な方に、担当ケアマネジャーと主治医等との連携を図りながら丁寧なサービスの提供を心掛けています。

事例を紹介致します。

Aさんは退院後、痛みや持病の為に生活範囲が狭まり外出頻度が減少しておられました。ケアマネジャーからの紹介を受け、週1回理学療法士による訪問リハビリが開始されました。体がほぐれ痛みが軽減していくとともに、もともと明るく前向きな性格のAさんは家族の協力もありメキメキと力を発揮されました。現在は、訪問リハビリを週2回と月一回の訪問看護での健康管理に加え、デイケアの利用もされています。

電動車椅子を操り、奥様との外出を楽しみながら活動的に過ごされています。

ご本人からのメッセージ「明るくパワフルなスタッフさんたちに指導を受けています。宿題があるのでリハビリのない日もやっています。電動車いすで利用できるお店を探して、外食や買い物を楽しんでいます」



※写真はご本人の許可を得て掲載しています

お問い合わせ先

訪問看護ステーション サポートひらまつ

管理者：松永（まつなが）

TEL: 082-250-8063

栄養サポートチームと摂食・嚥下チームの奮闘

栄養サポートチームと摂食・嚥下チーム

病気やケガの治療にも栄養は重要ですが、普段の生活で口からしっかり食べることは健康的に生きることそのものです。当院では、可能な限り患者さまに口から食べていただくことや、適切な栄養を摂取していただくことに力をいれています。今回は栄養治療の専門家である栄養サポートチーム、咀嚼や嚥下など摂食機能の専門家である摂食・嚥下チームの活動を紹介します。

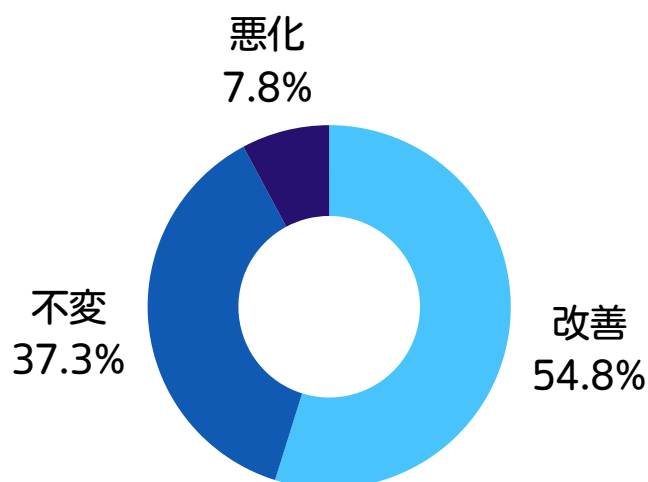
低栄養の評価と栄養治療

低栄養は、体に必要な栄養素やエネルギーを十分に摂取できていない状態のことを指します。低栄養になると体脂肪量と筋肉量の減少により、体重減少がすすむだけでなく、皮膚の乾燥や弾力性の低下など“見た目”に大きな変化が生じます。また、筋力が落ちることで活動性が低下し、疲れやすさ、気分の変調、無気力感など精神状態にも影響を与えます（右上図参照）。低栄養が進行すると、治療効果の低下や合併症リスクが高まります。そこで、低栄養対策が重要な課題となっています。しかし、国際的な低栄養診断基準は定まっておらず、国や地域による基準の差異は、国際的な低栄養対策の研究や協力に支障を来してきました。そこで、これらの問題を解決するために世界の主要な栄養学関連学会が協力して開発されたのがGLIM（Global Leadership Initiative on Malnutrition）基準です。GLIM基準による低栄養診断は、初めに栄養リスクのスクリーニングを行い、次に栄養リスク症例に低栄養診断を行います。さらに、必要に応じて重症度の判定を行うというプロセスになります。この基準により、世界的に一貫した栄養状態の評価が可能となり、より効果的な栄養治療が提供されることが期待されます。当院でもこの基準を導入し、栄養に問題のある患者さまを発見して、栄養サポートチームの医師、歯科医師、管理栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師、療法士の視点からカンファレンスを行い、回診して栄養療法につなげています。特に、高齢者の低栄養は免疫低下による感染症や他の慢性疾患の増悪のきっかけにもなりやすく早期発見・早期治療が重要です。高齢者の生活の質を下げずに退院後の生活環境も踏まえながら栄養改善を進めていくことはかなり難しさを感じますが、チーム一丸となって活動しています。



栄養治療の結果（介入後の評価：下図）

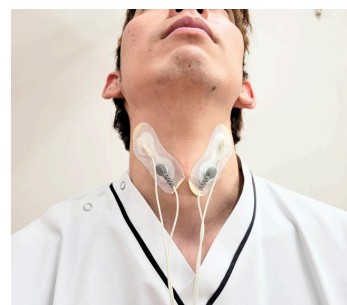
栄養治療の結果、不変や増悪の患者さまがいるときには症例検討会を実施しています。介入の途中で退院や転院されるなど最後まで経過を観察できない患者さまもいらっしゃいましたが、全体を通して栄養状態の悪化が防げたのではないかと思います。



摂食嚥下機能の評価と治療

当院は整形外科を主体とした病院ですが、脳血管疾患、加齢による筋力の低下、長期の絶食などにより摂食嚥下機能に問題を持つ方がいらっしゃいます。この摂食嚥下機能の問題は、栄養摂取量が不足するだけでなく、傷の回復遅延やリハビリテーションの効果が十分に出なくなり、誤嚥性肺炎を生じ入院期間が長期化することにもつながってしまいます。

当院では、入院時のチェックで摂食嚥下機能の低下が疑われた場合や栄養サポートチームからの依頼を受けた場合に、歯科医師・歯科衛生士・看護師・言語聴覚士・管理栄養士・薬剤師など摂食嚥下に関わる職種が早期に介入できるようシステム化しています。最善の医療が提供できるよう、嚥下内視鏡検査などの精査を実施し、嚥下に関わる多職種へ情報共有を行っています。リハビリでは干渉電流型低周波治療器（ジェントルスティム、右図）で嚥下反射機能の回復を促したり、舌圧計で舌の力を測定したりする機材も活用しながら摂食嚥下機能障害の回復と早期退院支援に取り組んでいます。



広報誌「まりもだより」電子化のお知らせ

令和5年9月に発行した「まりもだより第2号」以来、当院からの広報誌や文書を電子化させていただくことをご案内しておりました。ご協力いただいた病院様、事業所様には、今後も当院から電子メールなどで情報発信させていただきます。

当院からのメールをご希望の病院様、事業所様は下記へご連絡くださいますようお願い致します。

kouhou@marimokai.or.jp

広報誌「まりもだより」は当院のホームページでもご覧いただけます。





日本医療機能評価機構
認定第 JC2421 号



ヒロシマ平松病院

<https://www.marimokai.or.jp/>

〒732-0816 広島市南区比治山本町1-1-27

平松病院

 検索